

**製品名: YAP ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab19982**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	67kDa

**抗原情報**

遺伝子名	YAP1
別名	YAP1; YAP65; Yorkie homolog; 65 kDa Yes-associated protein; YAP65
遺伝子 ID	10413.0
SwissProt ID	P46937
免疫原	抗血清はヒト YAP 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 281-330

**背景**

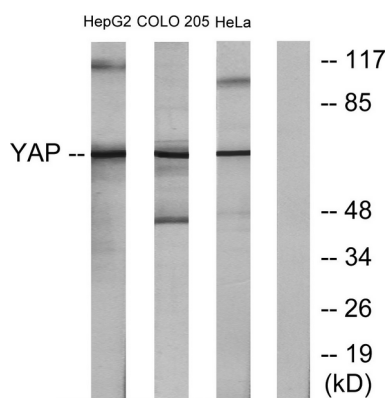
この遺伝子は、発生、成長、修復、および恒常性維持に関与する Hippo シグナル伝達経路の下流核エフェクターをコードしています。この遺伝子は、このシグナル伝達経路の転写調節因子として、複数の癌の発生および進行に関与することが知られており、癌治

療の潜在的な標的となる可能性があります。選択的スプライシングにより、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが生成されます。[RefSeq 提供、2013年8月],PTM: DNA 損傷時に、おそらく ATM または ATR によってリン酸化されます。類似性: 1つの WW ドメインを含みます。サブユニット: YES キナーゼの SH3 ドメインに結合します。WBP1 および WBP2 に結合します。in vitro において、WW1 ドメインを介して、PPSY モチーフを含む ENAH の神経アイソフォームに結合します。

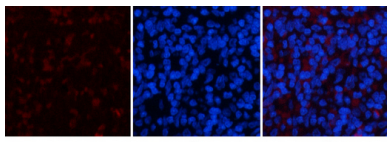
## 研究分野

シグナル伝達

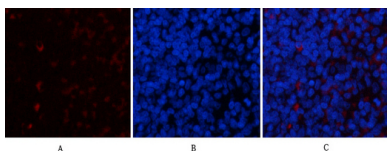
## 画像データ



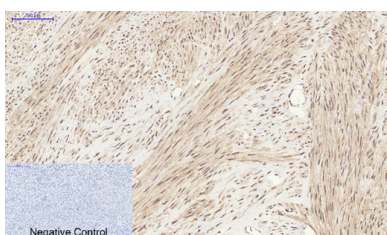
HeLa 細胞、HepG2 細胞、および COLO205 細胞のライセートを YAP 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンは合成ペプチドでブロッキングした。



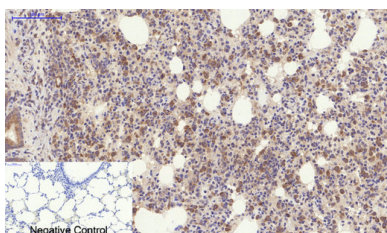
ラット脾臓組織の免疫蛍光染色。1, YAP ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



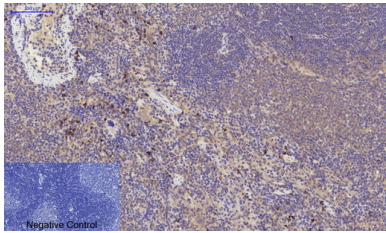
ラット脾臓組織の免疫蛍光染色。1, YAP ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



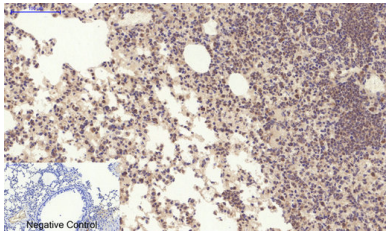
パラフィン包埋ヒト子宮組織の免疫組織化学染色。1. YAP ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



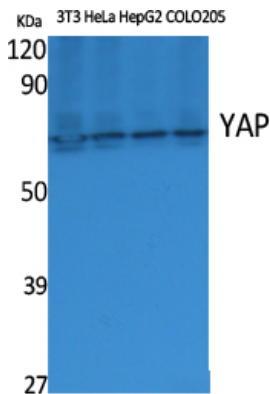
パラフィン包埋ラット肺組織の免疫組織化学染色。1. YAP ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



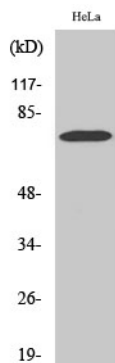
パラフィン包埋ラット脾臓組織の免疫組織化学染色。1. YAP ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋マウス肺組織の免疫組織化学染色。1. YAP ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



YAP ポリクローナル抗体 (1: 500 希釈) を用いた各種細胞のウェスタンブロット解析。二次抗体は 1: 20000 に希釈した。



YAP ポリクローナル抗体 (1: 500 希釈) を用いた COLO205 細胞のウェスタンブロット解析。二次抗体は 1: 20000 に希釈した。